

歴史 年表



国士館の創建を支えた人々

創立者
柴田 徳次郎 1890~1973

国士館創設の頃のわが国は、第一次世界大戦によって一時期、好景気となりましたが、反面、富山県の一漁村の主婦たちが起こした米騒動が、僅か10日あまりの間に全国各地に蔓延するなど、陰うつな世相でした。そのような時代に、柴田徳次郎、阿部秀助、花田大助、喜多梯一、上塚司らの青年有志たちが「青年大民団」を結成します。大民団の目的は「言論」と「教育」をもって国家の繁栄と国民生活の

安穩に資することにあり、「言論」では1916(大正5)年6月の雑誌「大民」創刊以来、1945(昭和20)年までよくその役割を果たしました。「教育」については、1917(大正6)年11月、東京・麻布に私塾「国士館」を開塾し、1919(大正8)年には世田谷に移って高等部、中等部と本格的な学校を設け、これを起点に今の総合大学国士館へと発展しました。

波瀾の時世、国士館の興隆を支えてきた人は少なくありませんが、先ず挙げなければならないのは、終生、学園経営の責を担ってきた創立者の功業と、国士館創建の四天王として知られる頭山満、徳富蘇峰、野田卯太郎、渋沢栄一存在です。また、中野正剛、緒方竹虎の名も国士館発展の歴史に深く刻みこまれています。

